



近代遺産ルート

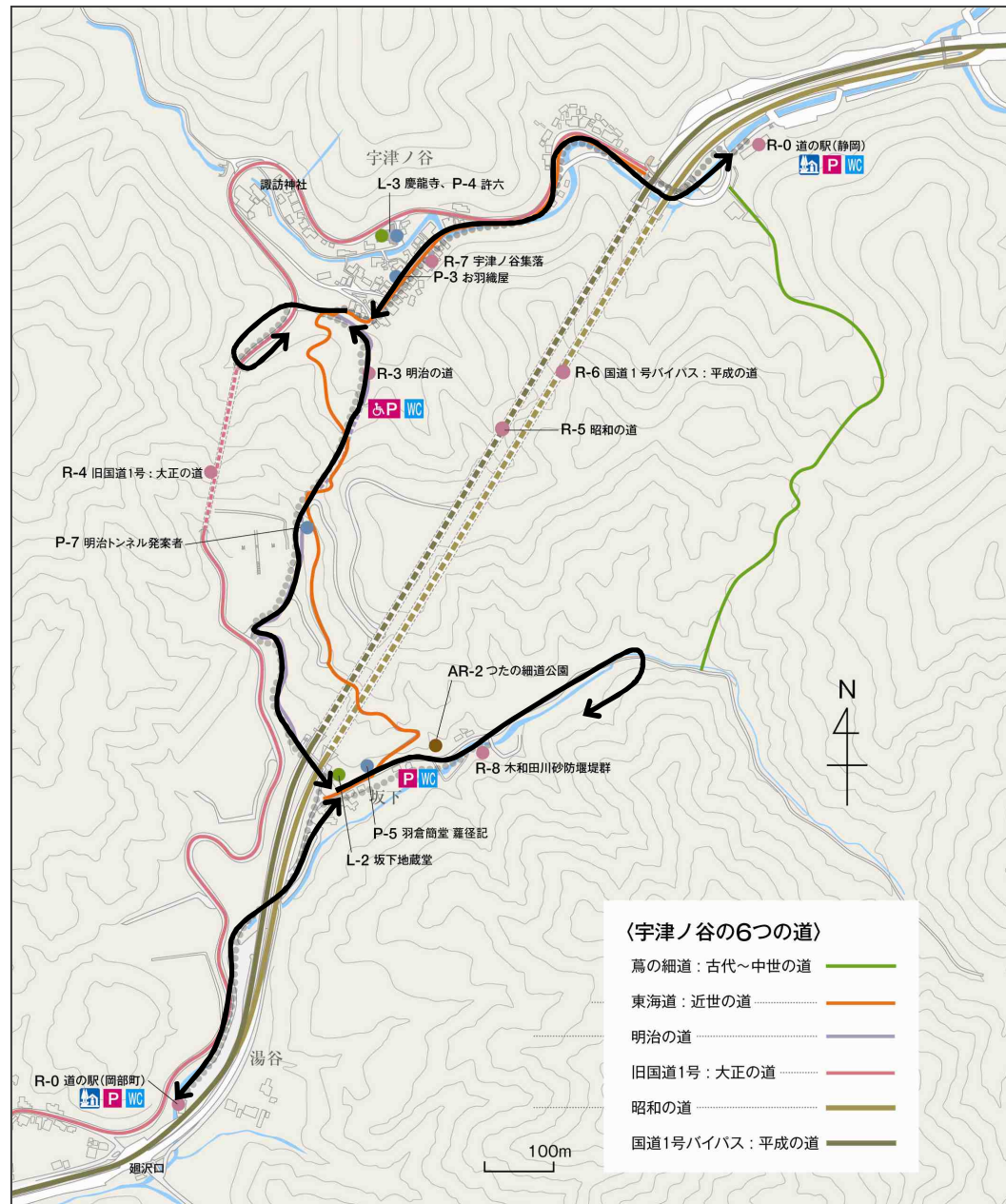
解説
マップ

R -0 道の駅(静岡市) R -5 昭和トンネル R -6 国道 1 号バイパス 550m R -7 宇津ノ谷集落 400m
 R -4 旧国道 1 号・大正トンネル 350m R -3 明治トンネル・明治の道 650m L -2 坂下地藏堂
 500m ~ R -8 木和田川砂防堰堤群 (A R -2 つたの細道公園) P -5 蘿徑記 400m R -0 道の駅
 (岡部町) Total : 約 2850m ~

明治以降の道や土木的な資源を学びながら歩ける約 3 km、約 1 時 30 分 ~ 2 時間の散策ルートです。このルートでは、車の到来により物流、通行が増え、劇的に変化した近代の道づくり、まちづくりについて学べます。

ルートの
学び
ポイント

R-0 道の駅 R-7 宇津ノ谷集落 L-3 慶龍寺 P-3 お羽織屋 R-4 大正の道・大正トンネル入口 R-3 明治の道・明治トンネル P-6 明治トンネル発案者 R-5 昭和トンネル入口 R-6 平成トンネル入口 P-5 羽倉簡堂 L-2 坂下地藏堂 A R-2 つたの細道公園 R-8 木和田川砂防堰堤群 R-0 道の駅



R - 0 道の駅 道利用者の快適性を高める施設

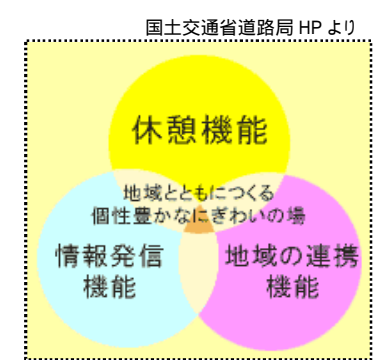
- 道を使う様々な人が安心、快適に道路を利用するため平成 5 年からはじめられた制度です。
- 右図の 3 つの機能を持った施設として整備されています。

< 提供するサービス(道の駅の条件) >

- 駐車場・トイレ・電話は 24 時間利用が可能。
- 案内人がいて親切に地域の情報を提供する体制。

< 地域側施設の設置者(道の駅の条件) >

- 全国には 868 箇所(H 1 9 年 8 月現在)整備されており、静岡県内には 19 箇所あります。



地場産品が買えるぜい



R - 7 宇津ノ谷集落

- 東海道の岡部宿と丸子宿の間の宿であった 40 戸ほどの集落です。静岡市の都市景観条例で「美しいまちづくり推進地区」に指定されており、地区では「宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会」を設立し、街道の面影のある町並みを保存しています。江戸末期 ~ 明治にかけての建物が多く現存しています。

L - 3 慶龍寺

- 峠にあった地藏堂の延命地藏尊(弘法大師作伝)が祀られており、本尊は十一面観音菩薩。人肉を食べる鬼が峠に出没し、旅僧に化身した地藏が十の玉にして退治した故事にちなんだ「十団子」は室町時代から伝わるものです。毎年 8 月 23 ~ 24 日の縁日には魔避けのお守りとして販売されます。

P - 3 お羽織屋

- 豊臣秀吉が小田原攻めの際、馬のわらじを取り替えるために寄った茶屋です。当時の主人は縁起の悪い「4」という数字を避け、わらじを 3 本足分だけ渡し、勝利を祈願しました。見事勝利を挙げた秀吉は主人の忠誠をほめて羽織を与えたことに由来しています。のちに徳川家康も訪れて茶碗を贈り、縁起の良い茶屋として参勤交代の大名なども立ち寄っています。

「道の駅」であった「端場(立場)茶屋」運送手段であった馬をつないで立ておくことから付いた名前です。通行する旅人のための休憩所で、地域の名物の菓子や果物とお茶を提供していました。ちょっと休んでお水を飲むのは無料であったようです。

R - 4 旧国道 1 号 R - 4 - 大正トンネル

- 昭和トンネルができるまで、戦前戦後を通じ、当時の東西を結ぶ自動車交通の増大を支えてきました。
- 大正トンネルは、長さ 227m x 幅 7.3m x 高さ 4.3m 大正 15 年着工、昭和 5 年開通しました。
- 昭和 29 年の台風による大災害で 2 ヶ月間通行不能になり、その後、復興、延伸工事がおこなわれました。そのため、トンネルの銘板は岡部町側が昭和 5 年、静岡市側が昭和 30 年となっています。

大型車両が多く通ります。また、大正トンネルは暗いので、充分気をつけて歩いてください



1

R-3 明治の道 P-6 明治トンネル発案者

- 明治7年安倍川に橋が架かると丸子～静岡間の輸送経路が完成し、物流が盛んとなり、厳しい峠越よりもトンネルへのニーズが高まってきました。
- そこで、安倍川の有料木橋を完成させた静岡市弥勒町の宮崎総吾は岡部町の杉山喜平治らに働きかけ他6名と結社し、トンネルの整備に着手しました。トンネルには約15万人の労役人夫が2年の歳月をかけたといわれており、トンネルの完成とともに明治の道が整備されました。これが日本で初めての有料トンネルです。
- 当時はお茶や竹を運ぶ馬車や人力車が多く通行していたようです。昭和トンネルの廃土置場だったため、一時通行できませんでしたが、平成19年度に歩行者道として再整備されました。

明治18年(1885年)、全国で44の路線が国道に指定され道に番号が付けました。現在国道は459路線あります。国道1号は、東京都中央区から大阪市へ至る道で565.4km(全国4位)の長い道路。ルートはほぼ東海道を踏襲している道路です。

R-3- 明治トンネル 明治の貴重な土木遺産として国の登録有形文化財

- 明治7年の着工、明治9年に開通した時は長さ224m×幅5.4m×高さ3.6mであり、「く」の字に曲がっていました。これは曲げた方がコストが安くなるからだそうです。
- 明治29年にカンテラの失火で崩落、明治36年には、静岡県によって再整備され、37年に開通した時に長さ203m×幅4.0m×高さ3.9mの現在の形になっています。

L-2 坂下地蔵堂 峠の地蔵信仰 鼻取り地蔵・稲刈り地蔵

- 農夫の牛が動かなくなった際、地蔵さまの化身の子供が現れて楽に動かしたといういわれがあります。
 - 地蔵菩薩は、インドの大地の神の信仰に起源を持ち、中国に入り地獄に落ちて苦しむ人を浄土に導く仏様として、日本に伝わり、信仰を寄せる者は深い慈悲で接してくれるとして広まりました。
- 峠には「境」として境の信仰＝峠信仰があり、地獄の入口で人を救う地蔵信仰とつながったようです。宇津ノ谷には峠の両側に地蔵が祭られています。

R-5 昭和トンネルの道 R-5- 昭和トンネル

- 昭和トンネルは、昭和32年に着工し、34年に開通した844m×9m×6.6mのトンネルです。幅員が9mは我が国最大の断面であり、自動車交通の増大を見越して新たにつくられました。平成9年の平成トンネルの工事にあわせて補強し862mとなっています。

P-4 羽倉簡堂 羅徑記 駿河の代官の嘆き？静岡県の名碑！

- 「羅」はつた「徑」小道を記わします。
- 文政13年(1830年)から9年間駿府代官であり、歌人でもあった羽倉簡堂が文学的に価値の高い蕪の細道が廃道になっているのを嘆いて建立した。文字は当時「江戸時代の三筆」といわれた市河米庵によります。道路整備における2度の移転を経て、現在の場所にあります。

R-6 国道1号バイパス R-6- 平成トンネル

- 昭和44年に東名高速道路が開通し、国道1号の交通量は一時的に緩和されましたが、慢性的な交通渋滞を解消するために、昭和トンネルの南側に並行して、平成トンネルを整備しました。
- 着工は平成2年、完成は平成7年、長さ881m×幅員11.25m×高さ6.58mのトンネルです。

AR-2 つたの細道公園 以下の人の歌の板碑があります

藤原俊成(1114～1204年)平安～鎌倉時代の歌人。藤原定家の父。万葉集や古今集の伝統を踏まえつつ平安末期の無常観、抒情性の豊かな歌風を確立しました。

藤原定家(1162～1241年) 歌道の名門を確立し、後世の歌に大きな影響を与えました。新古今和歌集(1205年成立)「新勅撰和歌集」などを撰進。

鴨長明(1155～1216年)歌人、随筆家。「方丈記」の作者。

兼好法師：吉田兼好(1283～1350年)鎌倉、南北朝時代の歌人、随筆家。「徒然草」の作者。

在原業平(825～880年)平安時代初期の貴族、歌人である。六歌仙、三十六歌仙の一人。桓武天皇の孫にあたり、在原氏の五男で右近衛中将であったため、別称在五中将とも言われています。

阿仏尼(1222?～1283年)鎌倉時代中期の女流歌人。鎌倉までの紀行文「十六夜日記」の作者。

林羅山(1583～1657年)朱子学者、江戸幕府の土台となる制度や儀礼に大きく係わります。

下田歌子(1854～1936年)明治時代女流歌人、教育者でもあり「日本が一流の大国と成らん為には大衆女子教育こそ必要」と日本の女子教育に尽力しました。

片山静枝 現代の歌人

R-8 木和田川砂防堰堤群

- 1号から8号まですべて登録有形文化財
- 明治43年の豪雨による山腹崩壊を契機に、県が建設した石積砂防堰堤群です。
- 下流から上流に向かって一号、二号の順に八号堰堤まで配置され、立面形状から「兜堰堤」とも呼ばれており、最大規模は二号堰堤の堤長25mです。明治期の構造形式を踏襲しつつ、台形越流部という近代的技術が加味され、現在は周囲の緑が回復し、石造構造物も一体となって、渓谷の自然景観とよく馴染んでいます。
- 国道1号から8号堰堤までの距離は約1.7kmあり、途中足元の悪い所もあります。

